

先進事例 紹介

消防の広域化

地域住民の安心・安全の更なる向上を目指して

静岡県 志太広域事務組合志太消防本部

管内の概況

本組合は、静岡県のほぼ中央、大井川の中下流に開けた志太平野に位置し、焼津市と藤枝市の2市により構成されています。年間平均気温16.5度、冬季の積雪もほとんどない温暖な気候のこの地域は、北は遠く世界遺産に指定された霊峰富士を望み、丘陵地を境に県都静岡市に隣接、東は駿河湾に面するなど、豊かな自然に恵まれています。また、管内を横断するように、JR東海道線・JR東海道新幹線・東名高速道路・新東名高速道路・国道1号・同バイパス・国道150号が通過しており、中世から東西交通の要衝として重要な役割を果たしています。管轄人口約29万1千人、面積約264km²に1本部2署4分署を配置し、250人の職員で災害に対応しています。

広域化に至る経緯

平成18年6月の消防組織法の一部改正に基づき静岡

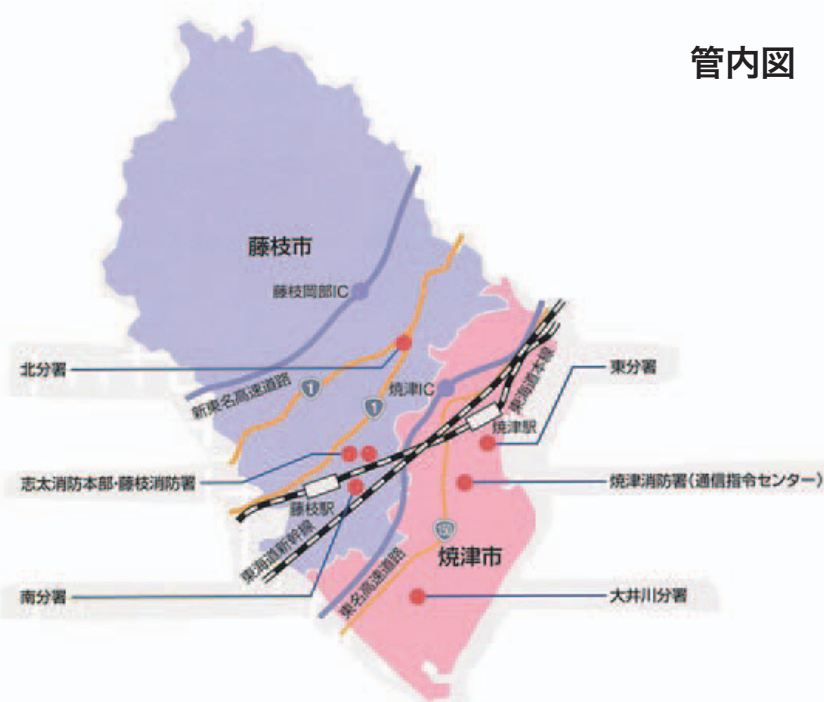


志太消防本部通信指令センター

県では、平成20年3月に県内を東部・中部・西部の3圏域3指令とする「静岡県消防救急広域化推進計画」を策定しました。その後、圏域ごとの対象市町による広域化に関する協議の結果、焼津市と藤枝市は住民の生活圏

が一体化しているとともに、ごみ処理など事務の共同化を既の実施していることから、2市による広域化を推進することとし、これを受け県では、平成22年6月に同計画を変更し(県内を8地域6指令とする。)、本地域は「志太地域」と位置付けられました。こうした状況下、同年7月には2市の首長が、地域住民の安心・安全を守る消防業務は首長の責任において遂行することが適切であるという共通認識のもと、「消防組織の広域化」については、平成24年度末を目途に統合することで合意しました。その後、同年10月に2市の市長・議長・自治会連合会長・消防団長・消防長で構成する「志太2市広域消防推進協議会」を設立、2年半にわたる協議・準備期間を経て、

管内図





焼津市中野市長（組合構成市）



藤枝市北村市長（組合構成市）

平成25年3月31日に「志太消防本部」が誕生しました。静岡県内で初の広域化が実現したわけではありますが、これには、両市長の英断と議会の理解が得られたからこそのものであると実感しています。

広域化の効果

地域住民の安心・安全の更なる向上を目指す中、本部機能の統合により19人を削減する一方で、現場職員を10人増強するなど、行財政改革を実現させたうえで、梯子車などの特殊車両が指令と同時に出動可能となり、初動体制を強化することができました。また、出動にあたっては、災害現場の直近の署から出動する部隊編成としているので、市境を超えた出動が可能となったことから、現場到着時間の短縮を図ることができるようになり、人的・物的被害の軽減や救命率の向上に繋がっているものと自負しています。

さらに、従前の両消防本部とも通信指令システムの更新時期を迎えていましたが、広域化を機にデジタル無線対応型の高機能通信指令システムを整備することができ、最新鋭の機能を駆使し、迅速かつ的確な活動を繰り返しています。この他、旧消防本部では、災害事案の重複時に非番員を呼び上げ対応に当たったこともありました。広域化後は、分署では乗換運用を行っているもの

の、非番員の呼び上げがなくなり職員の健康管理面も改善されました。

現在の取組と今後の課題

最近のゲリラ豪雨や広範囲にわたる災害が発生した場合の消防の対応には限界があります。このため、構成市の災害対策本部や地域と密接な関係にある消防団との連携が必要不可欠であることから、合同訓練などを通して、連携のとれた体制づくりに努めています。また、本地域は、東海・東南海・南海地震の3連動による地震の発生が危惧されていることや、原子力発電所から30km圏内に位置することから、原子力災害など大規模な災害に備えた体制づくりが喫緊の課題となっています。

まとめ

広域化後、まだ半年も経過していない中、再調整し、統一していかなければならないことが多々あるのが実状ですが、地域住民の安心・安全を確実に守るという消防の責務を十分に果たすことが消防職員の使命です。このため、今後も、構成市との良好な関係の維持や関係機関との連携強化はもとより、広域化によるスケールメリットを最大限に活かしたサービスが提供できるよう、一層の創意工夫を凝らし日々、業務に邁進してまいります。